

ハクサイ(野菜類、結球アブラナ科葉菜類の登録農薬も使用できる)

薬剤名	作用 機構 分類 コード	人 畜 毒 性	使用 時期 (日数)	使 用 回 数	使 用 条 件	べ と 病	白 さ び 病	白 斑 病	菌 核 病	黒 斑 病	炭 疽 病	根 こ ぶ 病	根 く び れ 病	ビ シ ウ ム 腐 敗 病	黄 化 病	苗 立 枯 病	尻 腐 病	黒 斑 細 菌 病	軟 腐 病	黒 腐 病
ベジキーパー水	-		*d	-														◎		◎
マスタピース水	-		1	-														◎	◎	
スターナ水	31		7	3														◎	◎	
トップジンM水	1		7	2				◎	◎		◎									
ベンレート水	1		7	2				◎	◎		◎									
エトフィンFL	22		7 *c	3 1		◎						◎								
アフェットFL	7		1	3				◎	◎	◎							◎			
パレード20FL	7		*f 1	1 3	☆				◎							®				
アミスター20FL	11		7	4		◎	◎	◎		◎										
スクレアFL	11		1	3					◎		◎									
ストロビーFL	11		3	3		◎		◎		◎										
ファンタジスタ顆水	11		3	3				◎	◎	◎	◎									
メジャーFL	11		3	3		◎	◎	◎		◎										
オラクル顆水	21		*c	2 1	☆							◎ ◎								
オラクル粉	21		*a *c	2								◎ ◎		◎						
ライメイFL	21		7	4		◎	◎													
ランマンFL	21		3 14 *b	4 1	☆	◎	◎					◎ ◎		◎						
フロンサイドS C	29		*c	1								◎					◎			◎
フロンサイド粉	29		*a	1								◎			◎					
ロブラール水	2		14	3				◎	◎	◎										
ポリオキシソリンAL溶	19		7	5						◎										
フェスティバル水	40		3	3		◎														
レーパスFL	40		7	3		◎														
オリゼメート顆水	P2		*e	1	☆													◎	◎	
ネビジン粉	36		*a	1								◎								
ネビリュウ粉粒	36		*a	1								◎								
ピシロックFL	U17		1	3		◎	◎							◎						
バリダシン液5	U18		3	3														◎	◎	
キノンドーFL	M1		30	5																◎

ハクサイ

ハクサイ(野菜類、結球アブラナ科葉菜類の登録農薬も使用できる)

薬剤名	作用機 構分類 コード	人畜 毒 性	使用 時期 (日数)	使 用 回 数	使 用 条 件	べ と 病	白 さ び 病	白 斑 病	菌 核 病	黒 斑 病	炭 疽 病	根 こ ぶ 病	根 く び れ 病	ビ シ ウ ム 腐 敗 病	黄 化 病	苗 立 枯 病	尻 腐 病	黒 斑 細 菌 病	軟 腐 病	黒 腐 病	
ジマンダイセン水	M3		30	1		◎	◎	◎													
ペンコゼブ水	M3		30	1		◎	◎	◎													
オーソサイド水80	M4		7	5		◎	◎	◎		◎						◎					
ダコソイル粉	M5		*a	1								◎	◎								
ダコニール1000FL	M5		7	2		◎	◎	◎		◎											
フォリオゴールドFL	4・ M5		7	2		◎	◎							◎							
リドミルゴールドMZ 顆水	4・ M3		30	1		◎								◎							
カセット水	31・ 24		21	2														◎	◎		
ソータルWDG	31・ 14		14	3													◎		◎		
ナレート水	31・ M1		30	3		◎		◎		◎										◎	
ダコレート水	1・ M5		7	2		◎			◎	◎											
ジャストフィットFL	43・ 40		7	3		◎	◎														
シグナムWDG	7・ 11		7	3		◎	◎	◎	◎	◎	◎						◎				
ベジセイバーFL	7・ M5		7	2		◎	◎	◎	◎	◎											
ゾーバックエンカン ティアSE	11・ 49		14	2		◎															
ホライズンDF	11・ 27		14	3		◎	◎														
アミスターオブティFL	11・ M5		7	2		◎	◎	◎		◎											
ドーシャスFL	21・ M5		7	2		◎	◎	◎		◎											
カンパネラ水 ベネセット水	40・ M3		30	1		◎															
カーニバル水	40・ M5		7	2		◎		◎		◎											
プロポーズ顆水	40・ M5		7	2		◎	◎	◎		◎											
カーゼートPZ水	27・ M3		30	1		◎															
ブリザード水	27・ M5		14	2		◎															
シトラーノFL	M1・ M5		30	2		◎		◎												◎	

注:花芯ハクサイは農薬取締法上はサントウサイ…非結球アブラナ科葉菜類の項を参照のこと

*a:播種又は定植前 *b:定植前日～当日 *c:定植前 *d:発病前～発病初期 *e:定植時

*f:育苗期後半～定植当日 ®:リゾクトニア菌による病害

☆:セル成型育苗トレイまたはベーパーポットで育苗している苗に灌注処理する。なお、この使用方法は、土耕栽培による苗には使用できない。

ハクサイ(野菜類の登録農薬も使用できる)

薬剤名	作用機構分類コード	人畜毒性	使用時期(日数)	使用回数	使用条数	アブラムシ類	アザミウマ類	カブラハバチ類	カブラハバチ類	コナガシガ	オオタバコガ	ヨトウムシ	シロイチモジヨトウ	ハスモンヨトウ	ハイマダラノメイガ	ネキリムシ類	ウワバ	キスジノミハムシ	コガネムシ類	コオロギ類	ナメクジ類	カタツムリ類	その他害虫
スピノエース顆水	5		3	3				◎	◎	◎	◎				◎	マ							
サブリナFL	11A		*c	-						◎	◎	◎											
ジャックポット顆水	11A		*e	-						◎	◎	◎	◎										
ゼンターリ顆水	11A		*c	-						◎	◎	◎											
チューレックス顆水	11A		*e	-						◎	◎	◎	◎										
スラゴ粒 ^{*1}	UN		*r	-																	◎	◎	
デナボン5%ベイト粒	1A		21	3										◎	◎					コ			ダ
オルトラン水	1B		30	1	◎			◎	◎	◎	◎	◎	◎										
オルトラン粒	1B		*a	1	◎			◎	◎	◎	◎	◎	◎			◎							
サイアノックス乳	1B		14	2	◎			◎	◎	◎	若					マ	成						
ジェイエース溶	1B		30	1	◎			◎	◎	◎	◎	◎	◎										
ジェイエース粒	1B		*a	1	◎			◎	◎	◎	◎	◎	◎										
ダイアジノン粒5	1B		*b	1												◎				◎			ケ
			*a	1												◎							
ダイアジノン粒10	1B	劇	*a	1												◎							
ネキリエースK粒	1B		*k	1												◎				◎			
ネマキック粒	1B		*s	1																			セ
マラゾン乳	1B		1	5	◎	◎		◎	◎														
アディオソ乳	3A		7	5	◎			◎	◎	◎													
ガードベイトA粒	3A		*d	5												◎							
サイハロン乳	3A	劇	14	3	◎			◎	◎	◎	◎												
テルスター水	3A		21	4	◎			◎	◎	◎	◎												
トレボン乳	3A		7	3	◎			◎	◎	◎	◎												
トレボンMC	3A		7	3	◎						◎												
フォース粒	3A	劇	*a	1												◎							
マブリック水20	3A	劇	21	2	◎			◎	◎	◎	◎					マ							
アクタラ顆溶	4A		*g	1	☆	◎																	
			3	3		◎																	
アクタラ粒5	4A		*g	1		◎			◎	◎													
			*i	1					◎														
アドマイヤー顆水	4A	劇	7	2	◎																		
アドマイヤーFL	4A	劇	7	2	◎																		
アドマイヤー1粒	4A		*a	1	◎																		

ハクサイ

ハクサイ(野菜類の登録農薬も使用できる)

薬剤名	作用機構分類コード	人畜毒性	使用時期(日数)	使用回数	使用条件	アブラムシ類	アザミウマ類	カブラハバチ類	カブラハバチ類	コナガシガ	オオタバコガ	ヨトウムシ	シロイチモジ	ハスモンヨトウ	ハイダラノメイガ	ネキリムシ類	ウワバ	キスジノミハムシ	コガネムシ類	コオロギ類	ナメクジ類	カタツムリ類	その他害虫	
アルバリン顆粒	4A		3	2		◎												◎					サ	
アルバリン粒	4A		*a	1		◎			◎◎						◎									
ダントツ溶	4A		1	2		◎			◎◎															
ダントツ粒	4A	*f		▲		◎									◎									
		*g		1		◎			◎◎						◎◎									
		*a				◎			◎◎						◎									
モスピラン顆粒	4A	劇	14	3		◎		◎◎◎																
モスピラン粒	4A	*a		1		◎			◎◎															
		*h				◎			◎◎						◎									
トランスフォームFL	4C		3	3		◎																		
ディアナSC	5		1	2			◎		◎◎◎◎				◎◎	◎◎	◎									
アニキ乳	6		3	3				◎◎	◎◎◎◎				◎◎	◎◎		◎							サ	
アフーム乳	6		7	3					◎◎		◎													
コルト顆水	9B		3	3		◎																		
コテツFL	13	劇	1	2				◎◎◎	◎			◎												
パダンSG溶	14	劇	7	3		◎		◎◎	◎◎													◎		
リーフガード顆水	14	劇	7	3		◎			◎◎					◎								◎◎		
アタブロン乳	15		7	4					◎◎◎		◎	◎	◎	◎			マ							
カスケード乳	15		7	2					◎◎◎		◎													
ノーモルト乳	15		7	2					◎◎◎		◎						マ							
マッチ乳	15		7	3					◎◎															
ファルコンFL	18		3	2					◎		◎													
マトリックFL	18		7	4							◎													
ハチハチFL	21A	劇	14	2		◎			◎◎					◎		◎					◎		サ	
ハチハチ乳	21A	劇	14	2		◎			◎◎					◎							◎			
マイトクリーン水	21A		7	2					◎															
トルネードエースDF	22A		7	2				◎◎	◎◎◎		◎◎	◎◎	◎◎	◎◎	◎									
ファイントリムDF	22A		7	2				◎◎◎	◎◎◎		◎◎	◎◎	◎◎	◎										
アクセルFL	22B		1	3				◎◎◎	◎◎◎		◎	◎	◎◎	◎◎		◎							サ	
アクセルバイト粒	22B		7	3									◎		◎					◎				
モベントFL	23		7	3		◎																		
フェニックス顆水	28		1	3					◎◎◎◎			◎		◎										

ハクサイ

ハクサイ(野菜類の登録農薬も使用できる)

薬剤名	作用機構分類コード	人畜毒害性	使用時期(回数)	使用回数	使用条数	アブラムシ類	アザミウマ類	カブラハバチ類	カブナガシ	アオタバコガ	ヨトウモリコシ	シロイチモジヨトウ	ハスモンヨトウ	ハイマダラノメイガ	ネキリムシ類	ウワバ	キスジノミハムシ	コガネムシ類	コオロギ	ナメクジ類	カタツムリ類	その他害虫
プリロツ粒	28		*m 1	△	◎				◎◎					◎								
			*Q		◎				◎◎					◎								
プレバソンFL 5	28		*m 1	☆				◎◎	◎◎		◎			◎								
			1 3					◎◎	◎◎		◎			◎								
プレバソン粒	28		*m 1	△					◎◎					◎								
			*Q						◎◎					◎								
ベネビアOD	28		1 3		◎				◎◎		◎		◎◎	◎◎		◎◎						
ベリマークSC	28		*m 1	☆	◎			◎◎	◎◎				◎◎	◎◎								
ヨーバルFL	28		1 3		◎			◎◎	◎◎	◎◎	◎◎	◎◎	◎◎	◎◎								
			*m 1	☆	◎				◎◎		◎		◎◎	◎◎								
ウララDF	29		1 2		◎																	
グレーシア乳	30		7 2			ネ			◎◎	◎◎	◎◎	◎◎	◎◎	◎◎								
プロフレアSC	30		1 3					◎◎	◎◎	◎◎	◎◎	◎◎	◎◎	◎◎			◎					サ
ファインセーブFL	34	劇	7 2						◎◎													
プレオFL	UN		7 2						◎◎	◎◎	◎◎											
ハクサップ水	1B・3A	劇	1 5		◎			◎◎	◎◎	◎◎	◎◎	◎◎	◎◎			マ						
アベイル粒	4A・28		*m 1		◎				◎◎					◎								
キックオフ顆水	4A・28		*p 1	☆	◎				◎◎		◎			◎								
ジュリボFL	4A・28		*m 1	☆	◎			◎◎	◎◎		◎		◎◎	◎◎			◎					
			3 3		◎				◎◎		◎		◎◎	◎◎								
ミネクトデュオ粒	4A・28		*t 1		◎			◎◎	◎◎					◎			◎					
			*a		◎				◎◎					◎								
			*i						◎													
アフームエクセラ顆水	6・15		7 3						◎◎	◎			◎									
アクセルキングFL	21A・22B	劇	14 2		◎	ネ			◎◎		◎			◎								ナ

注:花芯ハクサイは農薬取締法上はサントウサイ…非結球アブラナ科葉菜類の項を参照のこと。

*1:「ナメクジ類、カタツムリ類、アフリカマイマイ、ヒメリンゴマイマイが加害する農作物等」での登録。

☆:セル成型育苗トレイ又はペーパーポットで育苗している苗に灌注処理する。なお、この使用法は、土耕栽培による苗には使用できない。

△:セル成型育苗トレイ又はペーパーポットの上から均一に散布する。

▲:覆土後セル成型育苗トレイ又はペーパーポットの上から散布する。

ハクサイ

ハクサイ(野菜類の登録農薬も使用できる)

- *a:定植時
 - *b:播種時又は定植時
 - *c:発生初期(但し収穫前日まで)
 - *d:播種時～生育初期
 - *e:発生初期(但し結球開始前まで)
 - *f:播種時
 - *g:育苗期後半
 - *h:定植前日～定植当日
 - *i:播種前
 - *k:播種時又は定植時～生育初期(但し収穫14日前まで)
 - *m:育苗期後半～定植当日
 - *o:定植前まで
 - *p:定植前日～定植時
 - *Q:育苗期後半～定植時
 - *r:発生時
 - *s:播種又は定植前
 - *t:播種覆土後～育苗期後半
- ケ:ケラ コ:コオロギ サ:ダイコンサルハムシ (ダイコンハムシ)
セ:ネグサレセンチュウ及びネコブセンチュウ ダ:ダンゴムシ
ナ:ナモグリバエ ネ:ネギアザミウマ マ:タマナギンウワバ
若:若～中齢幼虫 成:成虫

ハクサイ(野菜類、結球アブラナ科葉菜類の登録農薬も使用できる)

病害虫名	防除時期	防除方法	参考事項
べと病	生育期	<ul style="list-style-type: none"> 発生を認めたら次の薬剤のいずれかを散布する。 ジマンダイセン水和剤 600倍 ストロビーフロアブル 3000倍 ダコニール1000(FL) 1000倍 ランマンフロアブル 2000倍 リドミルゴールドMZ(顆水) 1000倍 	<p>各種アブラナ科野菜に発生する。</p> <p>9月中旬より発生しはじめ10~11月にかけてまん延する。特に低温多湿のときに多発しやすい。</p>
白さび病	生育期	<ul style="list-style-type: none"> 発生を認めたら次のいずれかの薬剤を初期に散布する。 アミスター20フロアブル 2000倍 ダコニール1000(FL) 1000倍 フォリオゴールド(FL) 1000倍 ホライズンドライフロアブル 2500倍 	
白斑病・黒斑病	生育期	<ul style="list-style-type: none"> 発生を認めたら次の薬剤のいずれかを散布する。 ジマンダイセン水和剤 600倍 ストロビーフロアブル 3000倍 ダコニール1000(FL) 1000倍 ロブラール水和剤 1000~1500倍 	<p>いずれの病気も周年発生するが、特に晩秋から初冬にかけて雨の多い年に多発しやすい。各種アブラナ科植物に発生する。</p>
根こぶ病	播種前または定植前	<ol style="list-style-type: none"> 常発生地ではアブラナ科以外の作物との輪作を心がける。 畑の排水を良好にするか、または高畦栽培とする。 石灰施用により土壌酸度を矯正する。 定植直前に次の薬剤のいずれかを土壌混和する。 <ul style="list-style-type: none"> オラクル粉剤 <ul style="list-style-type: none"> 全面処理 30kg/10 a 作条処理 20kg/10 a ネビジン粉剤 <ul style="list-style-type: none"> 全面処理 20~30kg/10 a 作条処理 20kg/10 a フロンサイト粉剤 <ul style="list-style-type: none"> 全面処理 30~40kg/10 a 作条処理 15~20kg/10 a 定植前日~当日に次の薬剤をセル苗に灌注する。 <ul style="list-style-type: none"> ランマンフロアブル△ 500倍 	<p>各種アブラナ科作物に発生し、土壌伝染する。ダイコンでは被害はほとんど見ない。</p> <p>夏まき栽培で被害が大きく、夏から秋にかけて高温多雨の年に多発する。</p> <p>薬剤は表層10~15cmの土壌と十分に混合する。</p> <p>△20/セル成型育苗トレイ(30×60cm、土壌量約2.5~7ℓ)</p>

ハクサイ(野菜類、結球アブラナ科葉菜類の登録農薬も使用できる)

病害虫名	防除時期	防除方法	参考事項
軟腐病	播種時	・低湿地での栽培をさげ、排水を良好にする。	病原細菌は茎葉の傷口から感染する。 夏～秋にかけて高温多湿の年、秋まきに多発する。台風の後には多発しやすいので、台風直後には薬剤散布を励行する。降雨直後の作業は発病を助長する。 *野菜類での登録
	生育期	1. キスジノミハムシ、コオロギその他の害虫を駆除する(害虫の項参照)。 2. 台風や強い風雨など多発が予測される場合には、次の薬剤のいずれかを予防散布する。 カセット水和剤 1000倍 キノドーフロアブル 1000倍 ナレート水和剤 600～1000倍 Zボルドー(水)* 500倍 3. 発病株はすみやかに処分する。	
モザイク病・えそモザイク病	生育期	1. 播種後30日間寒冷紗を被覆する。 2. シルバーマルチ(ムシコン等)やマルチフィルムを用いてマルチ栽培する。 3. アブラムシ類を防除する(アブラムシ類の項参照)。 (夏から秋にかけて高温、乾燥の続く年、秋まきに多発する。マルチ栽培では高温障害に注意する)	アブラナ科野菜およびその他多くの作物、雑草などに広く発生し、アブラムシ類によって媒介される。 えそモザイク病は葉に多数のえそ(小黒点)を生じ、べと病と誤認しやすい。
アブラムシ類	播種時	・寒冷紗などによる被覆栽培や光反射マルチシート等で有翅虫の着生を防止する。	アブラムシは汁液を吸収して加害するだけでなく、ウイルス病を媒介するので、幼苗期の防除を徹底する。 △幼苗期に使用すると薬害が生じる事がある。
	定植時	・次の薬剤を植穴に施用し、土と混ぜる。 モスピラン粒剤 1g/株	
	生育期	・生育初期は定期的に、その後は発生に応じて次の薬剤のいずれかを散布する。 ウララDF 2000～3000倍 オルトラン水和剤 1500～2000倍 モスピラン顆粒水溶剤△ 2000～4000倍	
カブラハバチ	生育期	1. 被覆により成虫の飛来を防ぐ。 2. 発生を見たら次の薬剤のいずれかを散布する。 マラソン乳剤 1000倍 モスピラン顆粒水溶剤△ 4000倍	ニホンカブラハバチとカブラハバチの2種が主で、春と秋に発生が多い。 △幼苗期に使用すると薬害が生じる事がある。

ハクサイ(野菜類、結球アブラナ科葉菜類の登録農薬も使用できる)

病害虫名	防除時期	防除方法	参考事項
コナガ	定植期	1. コナガコン#を8~10m間隔に支柱を立て、たるまないように畝に平行に100~110m/10aまたは20cmチューブを200本/10a設置する。 2. 次の薬剤のいずれかを植穴土壌混和する。 オルトラン粒剤 3~6kg/10a (1~2g/株) モスピラン粒剤 1g/株	・発生回数が多く、春から初冬まで発生加害する。 #オオタバコガに対する登録も持つ。
	生育期	・発生を見たら次の薬剤のいずれかを散布する。 アタブロン乳剤 2000倍 アファーム乳剤 1000~2000倍 エスマルクDF* 1000~2000倍 コテツフロアブル 2000倍 スピノエース顆粒水和剤 2500~5000倍 ディアナSC 2500~5000倍 パダンSG水溶剤 1500倍 フェニックス顆粒水和剤 2000~4000倍 マッチ乳剤 2000~3000倍	抵抗性を獲得しやすいので同薬剤・同系統の薬剤を連用しない。 *野菜類での登録
アオムシ	生育期	・発生を見たら次の薬剤のいずれかを散布する。 アファーム乳剤 1000~2000倍 エスマルクDF* 1000~2000倍 オルトラン水和剤 1500~2000倍 ノーモルト乳剤 2000倍	老熟幼虫は薬剤が効きにくいので、小さいうちに駆除する。 *野菜類での登録
オオタバコガ	生育期	・発生を見たら次の薬剤のいずれかを散布する。 フェニックス顆粒水和剤 2000~4000倍 プレオフロアブル 1000倍	
ヨトウムシ	生育期	1. 卵塊で産卵され、若齢期は集団でいるので見つけ次第葉ごと処分する。 2. 発生を見たら次の薬剤のいずれかを散布する。 アファーム乳剤 1000~2000倍 オルトラン水和剤 1500倍 サブリナフロアブル 1000倍	薬剤は葉裏に丁寧に散布する。 老熟幼虫は薬剤が効きにくい。

ハクサイ(野菜類、結球アブラナ科葉菜類の登録農薬も使用できる)

病害虫名	防除時期	防除方法	参考事項
ハスモン ヨトウ	生育期	<p>1. 卵塊で産卵され、若齢期は集団でいるので見つけ次第葉ごと処分する。</p> <p>2. 幼虫若齢期に次の薬剤のいずれかを散布する。</p> <p>アタプロン乳剤 2000倍</p> <p>フェニックス顆粒水和剤 2000～4000倍</p>	春から初冬まで数回の発生をするが、多くなるのは8月下旬以降である。時に大発生となる。
ハイマダ ラノメイ ガ(ダイコ ンシンク イムシ)	育苗後期～ 定植時	<p>・ 次の薬剤のいずれかを処理する。</p> <p>アルバリン粒剤 植穴土壌混和 #3 3 g/株</p> <p>スタークル粒剤 植穴土壌混和 #3 3 g/株</p> <p>プレバソンフロアブル5 セル苗等に灌注 #1、#4 100倍</p> <p>プレバソン粒剤 株元散布 #5 1 g/株</p> <p>セル苗等に散布 #2、#4</p> <p>モスピラン粒剤 株元散布 #6 0.5 g/株</p>	<p>#1セル成型育苗トレイ1箱またはペーパーポット1冊(約30×60cm、使用土壌約1.5～4ℓ)当り0.5ℓ。土耕の育苗床では使用できない。</p> <p>#2セル成型育苗トレイ1箱またはペーパーポット1冊(約30×60cm、使用土壌約1.5～4ℓ)当り50g。土耕の育苗床では使用できない。</p> <p>#3定植時</p> <p>#4育苗期後半～定植当日</p> <p>#5育苗期後半～定植時</p> <p>#6定植前日～定植当日</p>
	幼苗期	<p>・ 次の薬剤のいずれかを散布する。</p> <p>アクセルフロアブル 1000倍</p> <p>スピノエース顆粒水和剤 2500～5000倍</p> <p>チューンアップ顆粒水和剤* 2000～3000倍</p>	<p>夏が高温乾燥のときに多発する傾向があり、8月上旬以降急増する。</p> <p>幼虫が芯部に食入してからは防除が難しいので、早期に防除する。</p> <p>*野菜類での登録</p>
ネキリム シ類		<p>・ 発生量は多くないので土を調べ、幼虫を捕殺する。</p>	
	定植時	<p>・ 次の薬剤を施用する。</p> <p>ダイアジノン粒剤10 3kg/10a</p>	
	生育期	<p>・ 発生を見たら次の薬剤を株元に施用する。</p> <p>デナポン5%ベイト(粒) 3～6kg/10a</p>	

ハクサイ(野菜類、結球アブラナ科葉菜類の登録農薬も使用できる)

病害虫名	防除時期	防除方法	参考事項
タマナギ ンウバ	生育期	・発生を見たら次の薬剤のいずれかを散布する。 アタブロン乳剤 2000倍 マブリック水和剤 1000～2000倍	
キスジノ ミハムシ	生育期	・発芽直後から本葉7～8葉期まで次の薬剤のいずれかを散布する。 アルバリン顆粒水溶剤 2000倍 サイアノックス乳剤△(成虫) 1000～2000倍 スタークル顆粒水溶剤 2000倍	△幼苗期および結球期直前は薬害の恐れがあるため使用しない。
コオロギ類	播種後または生育初期	・次の薬剤を施用する。 ネキリエースK(粒) 3kg/10a	
その他の病害虫		ヤサイゾウムシ	